

韓国環境部プレスリリース 2019年11月8日付

以下、機械翻訳などによる仮訳

鉄原遠南面の捕獲檻で捕獲されたイノシシからアフリカ豚コレラウイルス検出 (野生いのしし 23 例目)

<http://www.me.go.kr/home/web/board/read.do?boardMasterId=1&boardId=1083770&menuId=286>

【本文】

環境部所属の国立環境科学院(院長チャン・ユンソク)は江原道鉄原郡遠南面榛峴里 313 番地に設置された捕獲檻で捕獲されたイノシシからアフリカ豚コレラウイルスが検出されたと 11 月 8 日明らかにした。

11 月 6 日午前 7 時頃、軍部隊は、パトロール中の捕獲檻で捕獲されたイノシシを発見して科学院と地方自治体に申告した後、周辺へのアクセスを統制した。科学院は同日午後 4 時頃、野生のイノシシアフリカ豚コレラ標準行動指針によって試料を採取した。鉄原郡と軍部隊は現場消毒後、死体を処分した。

科学院は、精密分析を経て 11 月 8 日午後 2 時頃、アフリカ豚コレラウイルスを最終確認し、その結果を関係機関に通報した。これで鉄原で 9 件のアフリカ豚コレラウイルスが検出され、全国的には 23 件に増えた。

パク・チャンヨン環境部アフリカ豚コレラ総合状況室総括対応チーム長は「捕獲された地点は、民統線内や遠南面に設置された 2 次フェンスと約 140 メートル離れている」として、「2 次フェンスの設置を急いで拡張補完する計画であり、来週に予定されている民統線内の合同捕獲について、今回の発生地域一帯はフェンスの補完が完了するまで留保してくれることを国防部など関係機関に要請した」と話した。

(以上)